

JIS

建築用ガラスの振り子衝撃試験方法

JIS R 3110 : 2021

(FGMAJ/JSA)

令和 3 年 3 月 22 日 制定

日本産業標準調査会 審議

(日本規格協会 発行)

日本産業標準調査会標準第一部会 建築技術専門委員会 構成表

	氏名	所属
(委員長)	伊 藤 弘	国立研究開発法人建築研究所
(委員)	植 木 暁 司	国土交通省大臣官房官庁営繕部
	鹿 毛 忠 継	国立研究開発法人建築研究所
	釘 宮 悦 子	公益社団法人日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
	興 石 直 幸	一般社団法人日本建築学会 (早稲田大学)
	清 家 剛	東京大学
	清 野 明	一般社団法人住宅生産団体連合会 (三井ホーム株式会社)
	田 辺 新 一	早稲田大学
	永 井 香 織	日本大学
	原 智 彦	断熱・保温規格協議会
	福 田 孝 晴	一般社団法人日本建設業連合会 (鹿島建設株式会社)
	藤 野 珠 枝	主婦連合会 (藤野アトリエ一級建築士事務所)
	真 野 孝 次	一般財団法人建材試験センター
	山 崎 徳 仁	独立行政法人住宅金融支援機構
	吉 田 可保里	T & T パートナーズ法律事務所

主 務 大 臣：経済産業大臣 制定：令和 3.3.22

官 報 掲 載 日：令和 3.3.22

原 案 作 成 者：板硝子協会

(〒108-0074 東京都港区高輪 1-3-13 NBF 高輪ビル TEL 03-6450-3926)

一般財団法人日本規格協会

(〒108-0073 東京都港区三田 3-13-12 三田 MT ビル TEL 03-4231-8530)

審 議 部 会：日本産業標準調査会 標準第一部会 (部会長 酒井 信介)

審議専門委員会：建築技術専門委員会 (委員長 伊藤 弘)

この規格についての意見又は質問は、上記原案作成者又は経済産業省産業技術環境局 国際標準課 (〒100-8901 東京都千代田区霞が関 1-3-1) にご連絡ください。

なお、日本産業規格は、産業標準化法の規定によって、少なくとも5年を経過する日までに日本産業標準調査会の審議に付され、速やかに、確認、改正又は廃止されます。

目 次

	ページ
序文	1
1 適用範囲	1
2 引用規格	1
3 用語及び定義	2
4 試験装置	2
4.1 概要	2
4.2 装置	4
5 試験体	12
5.1 一般	12
5.2 試験体の寸法	12
5.3 試験体の数	12
6 試験手順	12
6.1 試験体の準備	12
6.2 試験	12
6.3 破壊性状の判定方法	13
7 結果の表し方	14
7.1 一般	14
7.2 落下高さによる区分	14
7.3 破壊の形態による区分	15
7.4 試験結果の表し方	15
8 試験報告書	17
附属書 A (規定) ショットバッグ加撃体の作製方法及び保守	18
附属書 B (参考) 開放機構の例	25
附属書 C (規定) 試験装置の校正	29
附属書 D (規定) 試験体に生じた開口部の判定方法	35
附属書 JA (参考) JIS と対応国際規格との対比表	37
解 説	41

まえがき

この規格は、産業標準化法第 12 条第 1 項の規定に基づき、板硝子協会（FGMAJ）及び一般財団法人日本規格協会（JSA）から、産業標準原案を添えて日本産業規格を制定すべきとの申出があり、日本産業標準調査会の審議を経て、経済産業大臣が制定した日本産業規格である。

この規格は、著作権法で保護対象となっている著作物である。

この規格の一部が、特許権、出願公開後の特許出願又は実用新案権に抵触する可能性があることに注意を喚起する。経済産業大臣及び日本産業標準調査会は、このような特許権、出願公開後の特許出願及び実用新案権に関わる確認について、責任はもたない。

建築用ガラスの振り子衝撃試験方法

Pendulum impact test method for glass in building

序文

この規格は、2015年に第1版として発行された **ISO 29584** を基とし、技術的内容を変更して作成した日本産業規格である。

なお、この規格で側線又は点線の下線を施してある箇所は、対応国際規格を変更している事項である。技術的差異の一覧表にその説明を付けて、**附属書 JA** に示す。

1 適用範囲

この規格は、建築用に使用する平板ガラスに対して、人が衝突したときのガラスの破壊性状を判定するための試験方法について規定する。この規格の試験方法は、加撃体を振り子状に落下させてガラスへ衝突させることで、人がガラスに衝突する状況を模擬している。ガラスが破壊することで人体への傷害を軽減する能力を、ガラスの破壊の形態及び落下高さで分類する。

注記 この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を、次に示す。

ISO 29584:2015, Glass in building—Pendulum impact testing and classification of safety glass (MOD)

なお、対応の程度を表す記号“MOD”は、**ISO/IEC Guide 21-1** に基づき、“修正している”ことを示す。

2 引用規格

次に掲げる引用規格は、この規格に引用されることによって、その一部又は全部がこの規格の要求事項を構成している。これらの引用規格は、その最新版（追補を含む。）を適用する。

JIS B 1180 六角ボルト

JIS G 3192 熱間圧延形鋼の形状、寸法、質量及びその許容差

JIS G 3466 一般構造用角形鋼管

JIS G 3525 ワイヤロープ

注記 対応国際規格における引用規格：**ISO 2408**, Steel wire ropes for general purposes—Minimum requirements

JIS K 6253-2 加硫ゴム及び熱可塑性ゴム—硬さの求め方—第2部：国際ゴム硬さ（10 IRHD～100 IRHD）

注記 対応国際規格における引用規格：**ISO 48**, Rubber, vulcanized or thermoplastic—Determination of hardness—Part 2: Hardness between 10 IRHD and 100 IRHD

JIS R 3206 強化ガラス